

フランスの劇作家、ポール・クローデル(1868～1955)が大使として滞日中に完成させた『繻子の靴』は、「1日目」～「4日目」と名づけられた四部構成による戯曲です。

大航海時代の新旧両世界を舞台にした、若き人妻ドニャ・ブルエーズと騎士ドン・ロドリックの、カトリック世界では許されない恋を描いた作品で、全曲上演すれば15時間を超える大作です。

昨年度より研究会および劇場実験を重ねてきた【近代日本語における〈声〉と〈語り〉】をテーマに、このフランス語韻文劇の伝統と日本の伝統演劇を意識し翻訳された舞台の日本語が実際に上演されるとき、どのような可能性が見えてくるのかを探ります。

同時に、「マルチメディア・シアター」の再定義をめぐる研究として、戯曲のもつ壮大な世界観を、映像／音／光という要素で追究します。この二つの成果を、ワーク・イン・プログレスとして上演します。

作 **ポール・クローデル**
翻訳・構成・演出 **渡邊守章**
映像・美術 **高谷史郎**

出演 鶴坂奈央 千代花奈 永井美梨奈

音楽 原厚利彦

メディア・オーサリング 古舘健

衣裳 清川敦子(atm)

所作指導 花柳綱仁

照明監督 岩村原太

照明 塩見結莉那 木内ひとみ 川島玲子

劇場スタッフ 小坂部恵次 榎崎英三 小山陽美 神家洋志郎

入場無料・申込不要(全席自由)

15:00～16:00 解説 渡邊守章、浅田彰

16:00～17:00 (予定) 『繻子の靴』上演

1日目第5場(「聖母への祈り」)、2日目第13場(「二重の影」)・第14場(「月」)、
3日目第8場(「ブルエーズの夢―守護天使」) より抜粋上演

2014/10/5 sun
start 15:00 (open 14:30)

京都芸術劇場 **春秋座** (京都造形芸術大学内)

繻子の靴

しゆす

上演のための
実践的研究